



BOM for Windows Ver.6.0 ホワイトペーパー

2013 年 6 月

セイ・テクノロジーズ株式会社

免責事項

本稿に記載された内容は、予告無しに変更される場合があります。

セイ・テクノロジーズ株式会社は、本稿に関していかなる種類の保証（商用性および特定の目的への適合性の黙示の保証を含みますが、これに限定されません）もいたしません。

セイ・テクノロジーズ株式会社は、本稿に含まれた誤謬に関しての責任や、本稿の提供、履行および使用に関して偶発的または間接的に起こる損害に対して、責任を負わないものとします。

目次

1. BOM FOR WINDOWS VER.6.0 の概要	1
1.1. 特徴	1
2. BOM FOR WINDOWS VER.6.0 の主な改良点	2
2.1. CERTIFIED FOR WINDOWS SERVER 2012 LOGO 取得	2
2.2. IPV6 対応	3
2.3. 全く新しくなった集中監視コンソール	4
2.3.1. WEB コンソール化	4
2.3.2. GOOGLE CHROME やタブレット端末でもコンソールに	5
2.3.3. BOM 5.0 の監視インスタンスも統合監視可能	6
2.3.4. グループ機能の強化と EXPLORER 形式のビュー	7
2.3.5. 視認しやすいステータスアイコン	7
2.3.6. それぞれの BOM から履歴ログも収集	8
2.3.7. アーキテクチャーを一新し、サービスとコンソールの分離化	8
2.4. 互換性を重視した設計	9
2.4.1. 複数バージョンの BOM を1つのマネージャーで	9
2.4.2. 集中監視コンソールの設定移行	10
2.4.3. BOM 5.0 から BOM 6.0 への監視設定移行	11
2.5. インストーラーの一本化	12
2.6. WINDOWS ファイアウォール対応への簡素化	12
2.7. アーカイブデータベースへの SQL SERVER 2012 対応	13
2.8. パフォーマンスカウンター監視の 64BIT 対応	14

1. BOM for Windows Ver.6.0 の概要

1.1. 特徴

ーシステム管理者が短時間に習得でき、ピンポイントに監視できるサーバーシステム監視 & 通知リカバリーツールです。
BOM は、元々現場のエンジニアが自ら欲しいツールとして開発されました。

著名な統合型運用管理ツールは、ジョブ管理、ネットワーク管理、資産管理等含めた大規模なシステムを前提とする仕様・仕組みになっています。そのため、管理者が一番知りたい単純なサーバーシステムに適用する場合でも、複雑で、運用に手間隙がかかり、予算と時間と人に余裕がないと、なかなか使いこなせませんでした。

シンプルで、使い易く、バックアップソフトやワクチンソフトと同じ感覚で利用できる事を目指した BOM はバージョンアップした 6.0 でも変わりません。

ー他製品にはない、ユニークな自立分散型を基本としたシステム構成になっています。

- ・多様なシステム構成(監視の仕組み)に柔軟に対応できます。
- ・たった 1 台の小規模システムから適用できます。
- ・徐々に中・大規模への移行も可能です。

ー代理監視機能

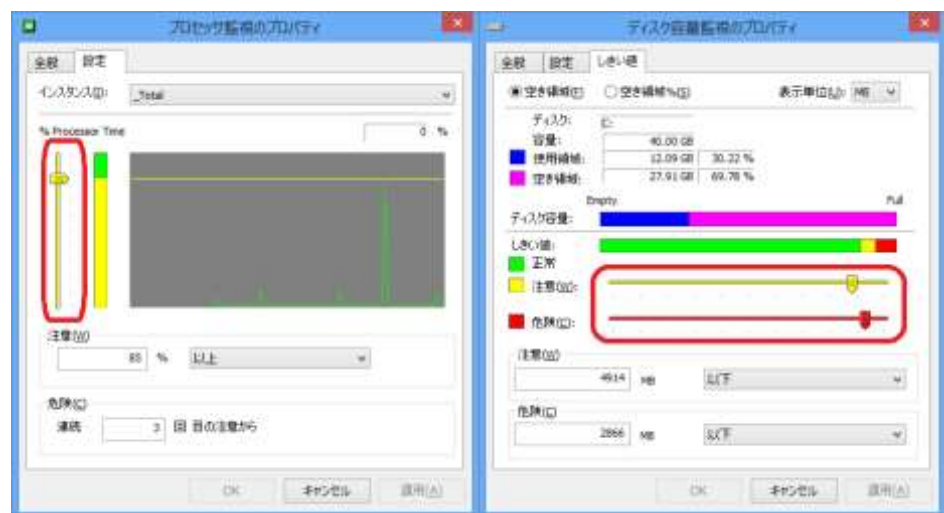
BOM をインストールしていないサーバーも監視可能です。

監視のためにソフトウェアを追加したくない重要なコンピューターや BOM がサポートしていない他言語版 Windows OS のコンピューターに有効です

ー設定にスクリプトは不要です、シンプルでわかりやすい GUI

設定が簡単: 全て GUI にて設定。面倒なスクリプトの開発は不要です。

プロセッサ監視、ディスク容量監視などは、動的な監視値を目で確認して、しきい値をスライダー(バー)で決められます。



BOM for Windows Ver.5.0(以降 BOM 5.0 と記)を踏襲し、Microsoft 管理コンソール(MMC:Microsoft Management Console)に対応しています。

OS 標準の管理ツールと統一のとれた操作性で違和感ありません。

ーサーバーの安定稼働にいち早く到達することができるのが、これからも BOM の強みです。

2. BOM for Windows Ver.6.0 の主な改良点

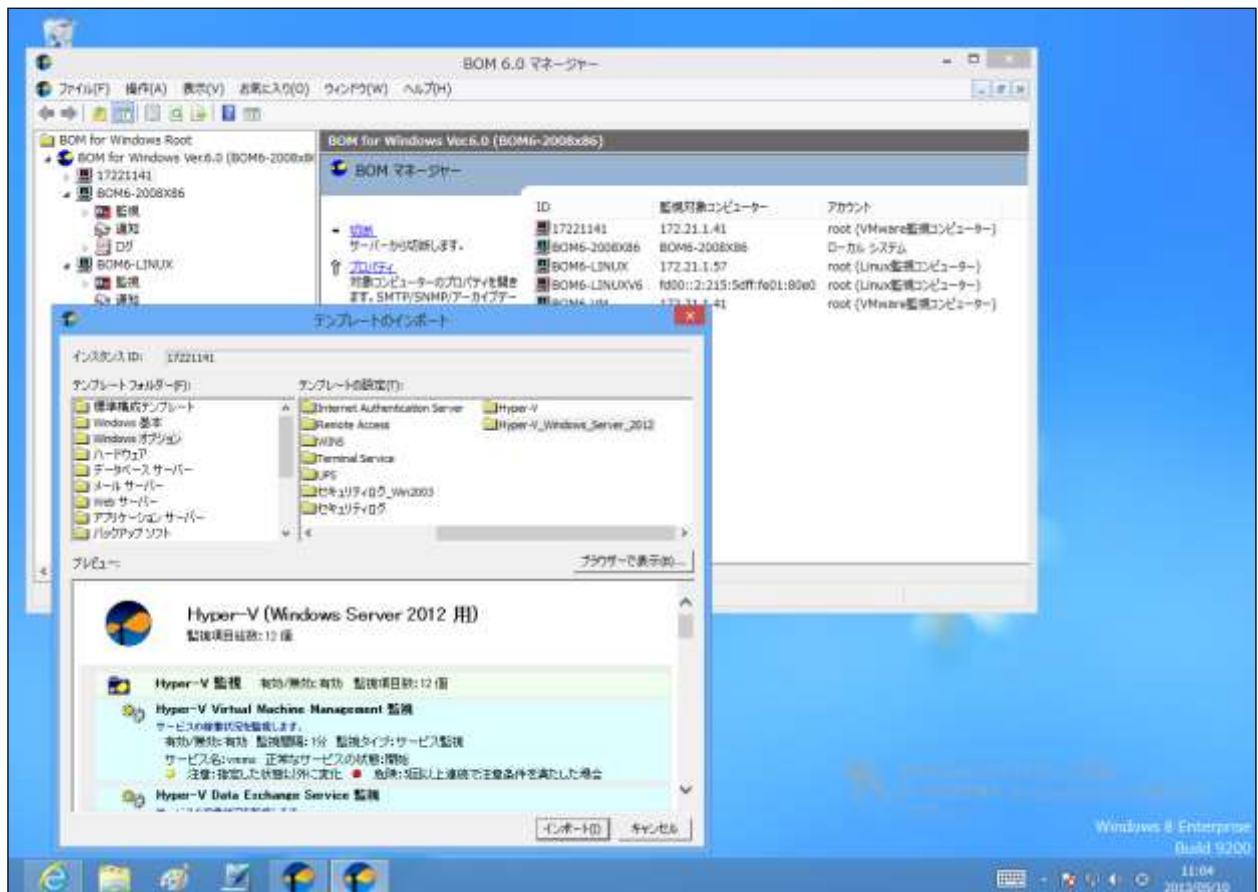
2.1. Certified for Windows Server 2012 Logo 取得

BOM for Windows Ver.6.0(以降 BOM 6.0 と記)ではマイクロソフト社の『Certified for Windows Server 2012 Logo』を取得しました。

Windows Server 2012 並びに Windows 8 に正式に対応したソフトウェアです。



最新 Hyper-V や Internet Information Services 8.0 を始めとした Windows Server 2012 に対応した監視テンプレートの更新・追加をしています。



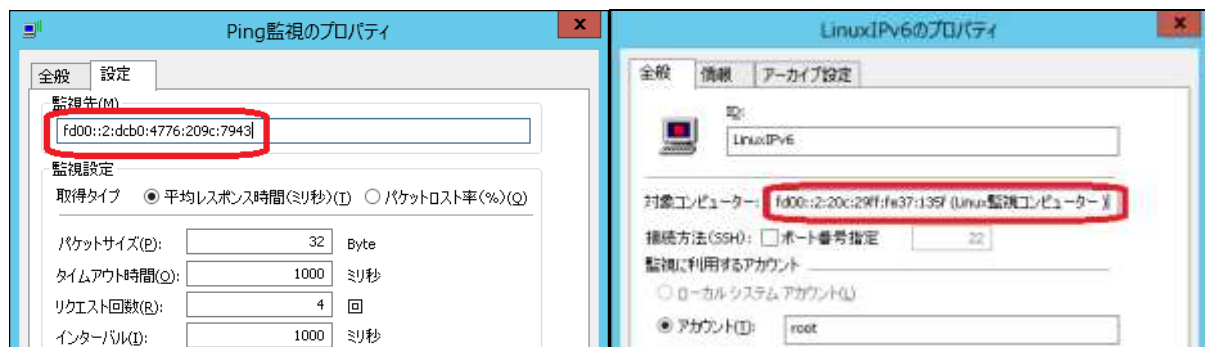
バージョンが 6.0 になってもインストールから最短 10 分で監視スタートできる手軽さは変わりません。

2.2. IPv6 対応

日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)並びアジア太平洋ネットワークインフォメーションセンター(APNIC)は既に IPv4 アドレスの通常割り振りを終了しています。

割り振り済みの IPv4 アドレスは今まで通り使えますので、急にネットワークが使えなくなる訳ではありませんが、時代は確実に IPv6 への対応を求めています。

BOM 6.0 では基本製品はもちろんの事、オプションにわたる全ての製品で IPv6 に対応しました。IPv4 との混在環境はもちろんの事、IPv6 のみの環境であっても BOM は対応しています。



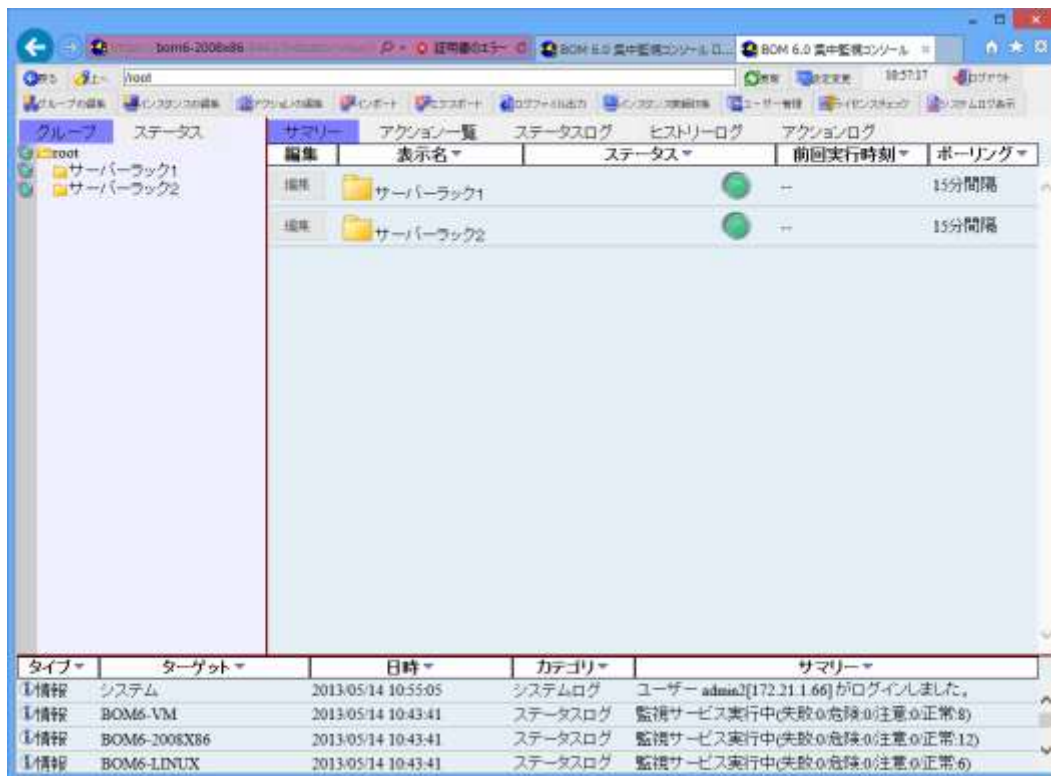
Ping 監視の監視(Ping 送信)先と Linux インスタンスの対象コンピューターでの IPv6 指定の実際

※IPv6 アドレスを入力設定する際には一部ブラケット(“[”と“]”)をつけて入力する必要があります。

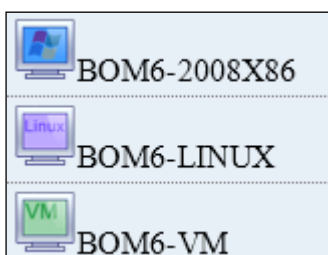
2.3. 全く新しくなった集中監視コンソール

2.3.1. Web コンソール化

BOM 6.0 の集中監視コンソールは Web コンソールとして生まれ変わりました。



それぞれの監視対象サーバーを示すアイコンもインスタンスの種類によって差別化し、わかりやすくなっています。



Windows インスタンス

Linux インスタンス

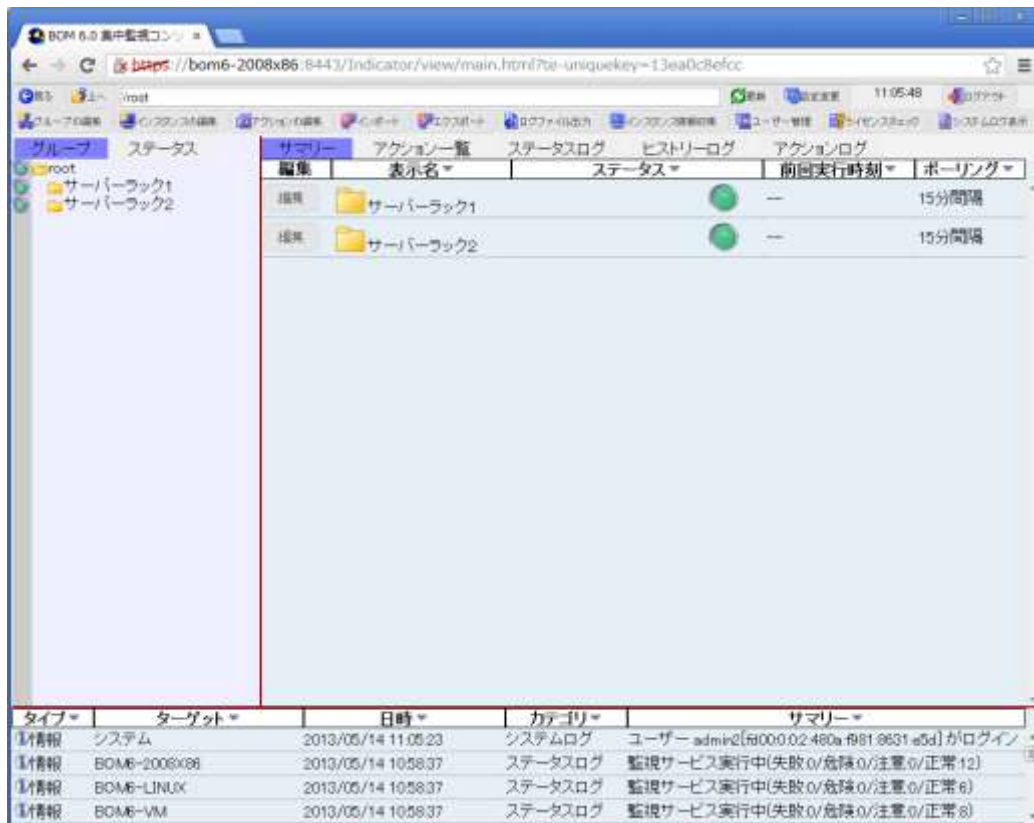
VM インスタンス

このように一目で監視対象のインスタンスの種類が把握可能です。

2.3.2. Google Chrome やタブレット端末でもコンソールに

Web コンソールとなった集中監視コンソールは Microsoft 社製の Internet Explorer だけがコンソールの対応ブラウザではありません。

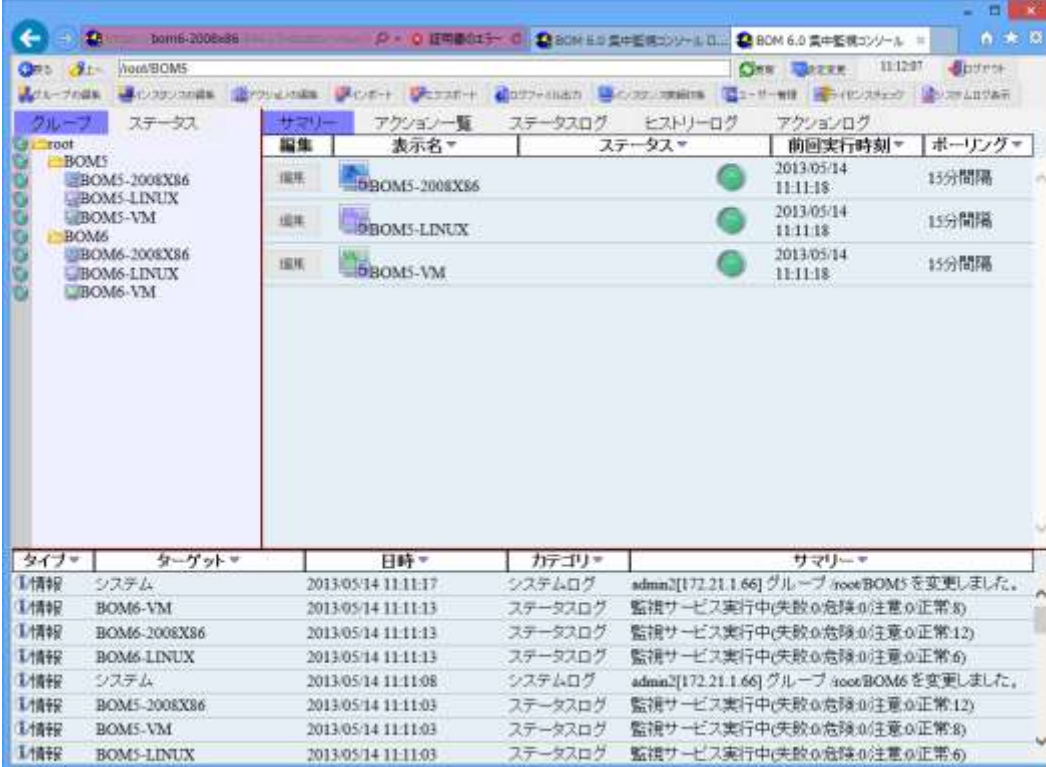
集中監視コンソール用 Web ブラウザーは Google 社の Chrome や iOS 上での Safari でも対応を確認しています。









使用する端末や OS などに応じて、Web ブラウザーを選択する事が可能となっています。

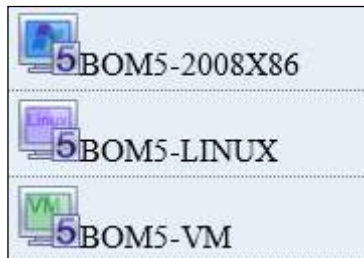
2.3.3. BOM 5.0 の監視インスタンスも統合監視可能

BOM 6.0 集中監視コンソールでは BOM 5.0 での各監視インスタンス(Windows インスタンス、Linux インスタンス、VM インスタンス)からの監視結果も収集し一元管理可能です。



編集	表示名	ステータス	前回実行時刻	ポーリング
	BOM5-2008X86		2013/05/14 11:11:18	15分間隔
	BOM5-LINUX		2013/05/14 11:11:18	15分間隔
	BOM5-VM		2013/05/14 11:11:18	15分間隔

タイプ	ターゲット	日時	カテゴリ	サマリー
情報	システム	2013/05/14 11:11:17	システムログ	admin2[172.21.1.66] グループ /root/BOM5 を変更しました。
情報	BOM6-VM	2013/05/14 11:11:13	ステータスログ	監視サービス実行中(失敗の危険/注意の正常8)
情報	BOM6-2008X86	2013/05/14 11:11:13	ステータスログ	監視サービス実行中(失敗の危険/注意の正常12)
情報	BOM6-LINUX	2013/05/14 11:11:13	ステータスログ	監視サービス実行中(失敗の危険/注意の正常6)
情報	システム	2013/05/14 11:11:08	システムログ	admin2[172.21.1.66] グループ /root/BOM6 を変更しました。
情報	BOM5-2008X86	2013/05/14 11:11:03	ステータスログ	監視サービス実行中(失敗の危険/注意の正常12)
情報	BOM5-VM	2013/05/14 11:11:03	ステータスログ	監視サービス実行中(失敗の危険/注意の正常8)
情報	BOM5-LINUX	2013/05/14 11:11:03	ステータスログ	監視サービス実行中(失敗の危険/注意の正常6)



BOM 5.0 用のアイコンも Windows インスタンス、Linux インスタンス、VM インスタンスで差別化し視認しやすくしています。

BOM 5.0 と BOM 6.0、インスタンスの種別(Windows、Linux、VMware)が様々な混在した環境でも一元管理が可能です。

2.3.4. グループ機能の強化と Explorer 形式のビュー

BOM 6.0 集中監視コンソールでは、BOM 5.0 集中監視コンソールにて 10 個までのグループとそれぞれのグループに登録するインスタンス数が 20 個となっていた制限がなくなりました。

特にグループに関しては、複数階層型のグループにも対応しています(階層は最大7つまで)。

これにより、監視対象インスタンスの管理の自由度が大幅に向上しています。



この階層グループ構造により、見た目も Explorer 形式に近いビューとなりました。

2.3.5. 視認しやすいステータスアイコン

集中監視コンソールとしては馴染みとなっている色別式のステータスアイコンを、より一層視認しやすくリニューアル(正常、注意、危険...)しました。

ビューに応じて大きさも変換し、1つの監視インスタンスの結果サマリーの画面では右の様に大きくはっきりと表示し、誤認の心配もありません。

サマリー

ステータス

ステータスログ

履歴ログ

ステータス

失敗

0

危険

0

注意

0

正常

6

ポーリング情報

次回ポーリング日時

2013/05/15 17:00:44

最終ポーリング日時

2013/05/15 16:45:45

ポーリング実行状態

実行中ではない

ポーリング設定

グループの設定に従う

ポーリング設定有効

--

ポーリング間隔

--

インスタンス設定

表示名

BOM6-LINUX

2.3.6. それぞれの BOM からヒストリーログも収集

各 BOM の監視結果を収集する際に、今までは監視の結果だけの収集でそれ以上の情報はインスタンスを指定してマネージャーを起動した上でチェックする必要がありましたが、BOM の動作の詳細結果であるヒストリーログも集中監視コンソールから直接確認できるようになりました。

<div> <div>更新</div> <div>設定変更</div> <div>16:30:35</div> <div>ログアウト</div> </div> <div> <div>シヨンの編集</div> <div>インポート</div> <div>エクスポート</div> <div>ログファイル出力</div> <div>インスタンス情報収集</div> <div>ユーザー管理</div> <div>ライセンスチェック</div> <div>システムログ表示</div> </div>				
<div> <div>サマリー</div> <div>アクション一覧</div> <div>ステータスログ</div> <div>ヒストリーログ</div> <div>アクションログ</div> </div>				
タイプ	表示名	日時	カテゴリ	サマリー
情報	BOM5-LINUX	2013/05/17 01:08:52	監視	監視 '/dev/sda IO 要求(/min)' のステータスが 正常 に変化しました。
情報	BOM6-LINUX	2013/05/17 01:07:33	監視	監視 '/dev/sda IO 要求(/min)' のステータスが 正常 に変化しました。
警告	BOM5-LINUX	2013/05/17 01:05:51	監視	監視 '/dev/sda IO 要求(/min)' のステータスが 注意 に変化しました。
警告	BOM6-LINUX	2013/05/17 01:04:33	監視	監視 '/dev/sda IO 要求(/min)' のステータスが 注意 に変化しました。
情報	BOM6-2008X86	2013/05/17 00:00:55	サービス	BOM6Agent\$BOM6-2008X86 サービスは正常に動作中です。

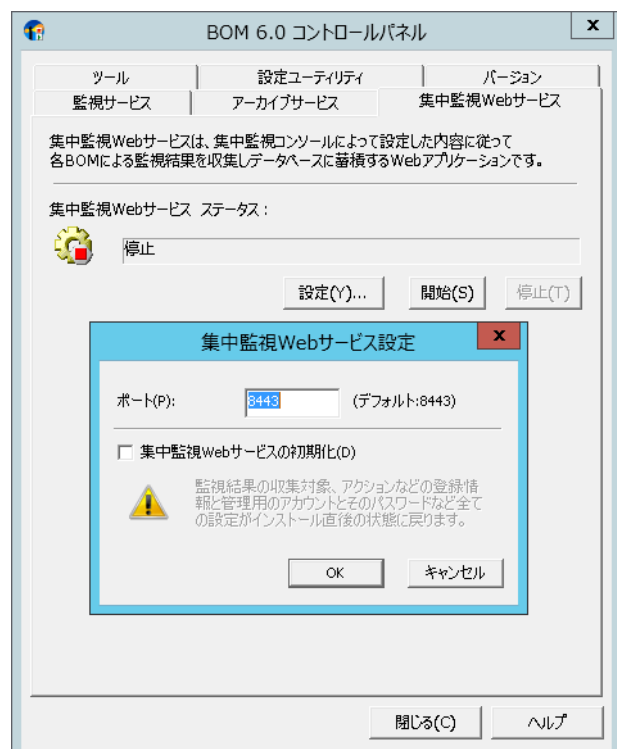
2.3.7. アーキテクチャーを一新し、サービスとコンソールの分離化

各 BOM の監視結果を収集するサービス部分その結果を画面に表示するコンソール部分を分離しました。

これにより BOM 5.0 の集中監視コンソールの様に常時コンソール自体を起動し続けないと監視結果の収集が途切れてしまう事はなくなりました。

必要な時にコンソールを起動して監視結果の確認をし、その後コンソールを終了しても集中監視は継続しています。

もちろん集中監視コンソールで設定したアクションも同様にコンソールが起動していなくても集中監視の結果によってアクション実行が行われます。



2.4. 互換性を重視した設計

BOM 6.0 では旧バージョンである BOM 5.0 を併用した運用やバージョンアップ時の簡便化など、互換性に対して考慮した設計となっています。

2.4.1. 複数バージョンの BOM を1つのマネージャーで

BOM の旧バージョンとの互換性、親和性は集中監視コンソール以外でも保たれています。

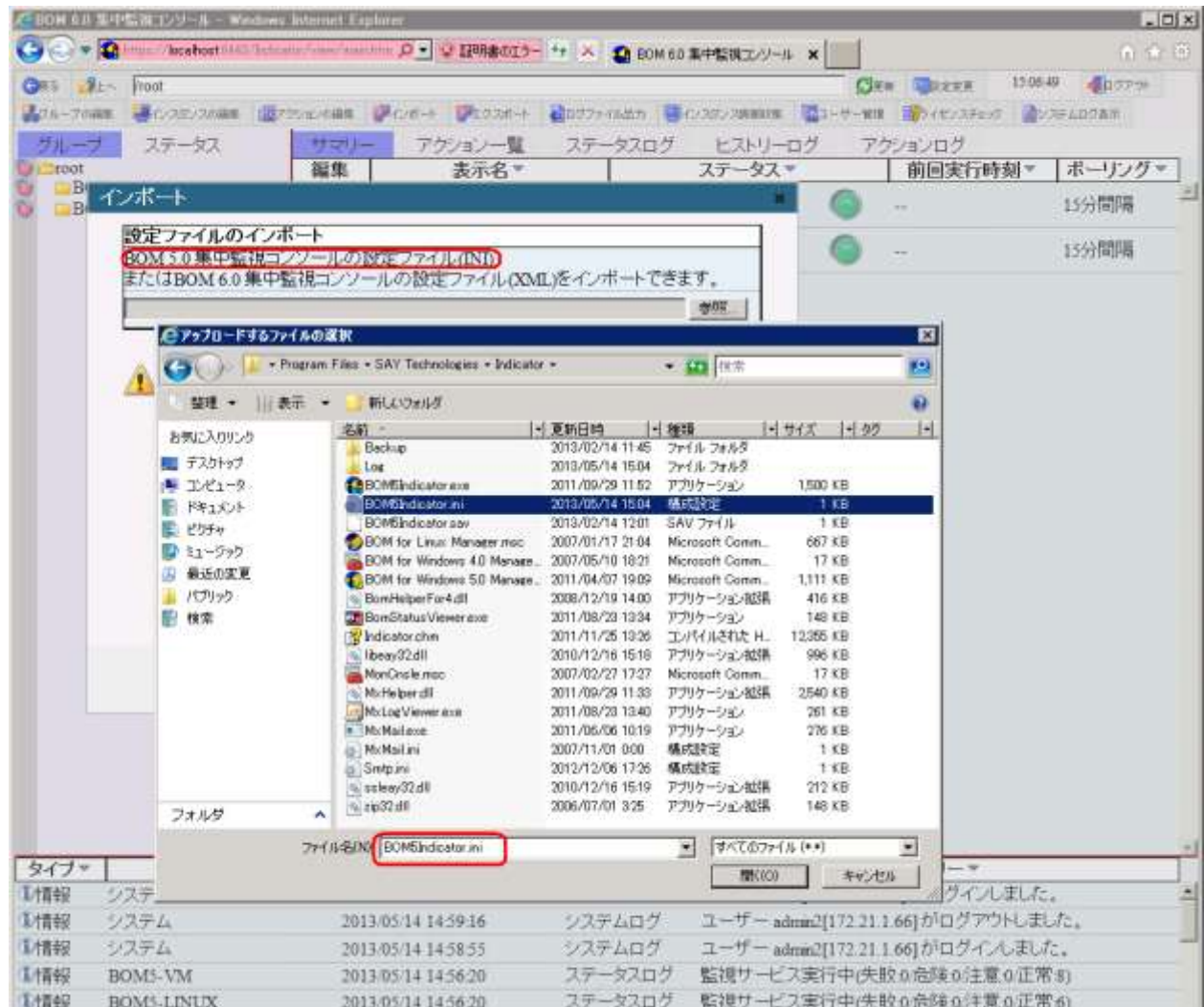
これは BOM 6.0 マネージャーに BOM 5.0 のスナップインを追加し、BOM の両バージョンのマネージャーを統合したものです。



マネージャーでの BOM 6.0 と BOM 5.0 の共存

2.4.2. 集中監視コンソールの設定移行

集中監視コンソールでは BOM 5.0 の集中監視コンソールの設定ファイルを読み込み、反映する「インポート」機能を実装しています。これで集中監視コンソール環境の BOM 6.0 へバージョンアップも安心です。



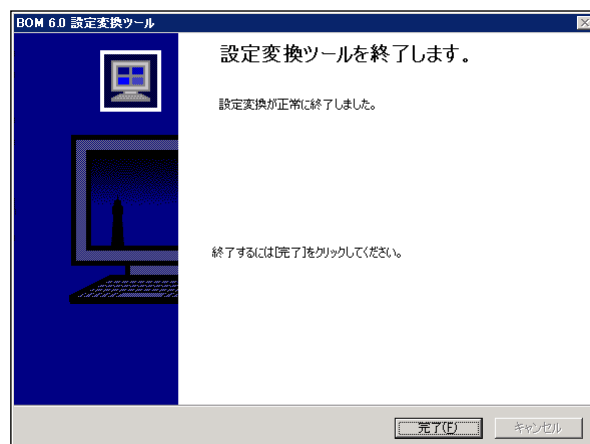
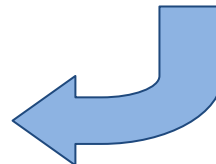
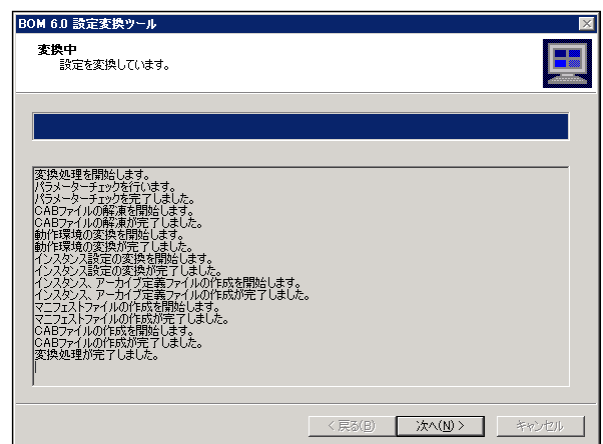
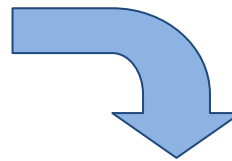
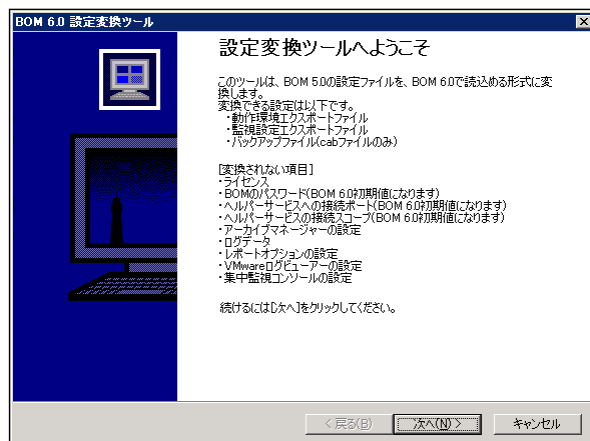
設定ファイルのインポート画面

2.4.3. BOM 5.0 から BOM 6.0 への監視設定変換

BOM 5.0 から BOM 6.0 へスムーズな移行の手助けにと、設定変換ツールを用意しました。

BOM 5.0 のバックアップファイル、動作環境・監視設定のそれぞれのエクスポートファイルから、BOM 6.0 用のファイルへ変換するツールになります。

本ツールによって作成された BOM 6.0 用のファイルは、バックアップファイルは BOM 6.0 コントロールパネルのリストア機能より、エクスポートファイルは BOM 6.0 マネージャーの各インポート機能より BOM 6.0 に反映が可能です。

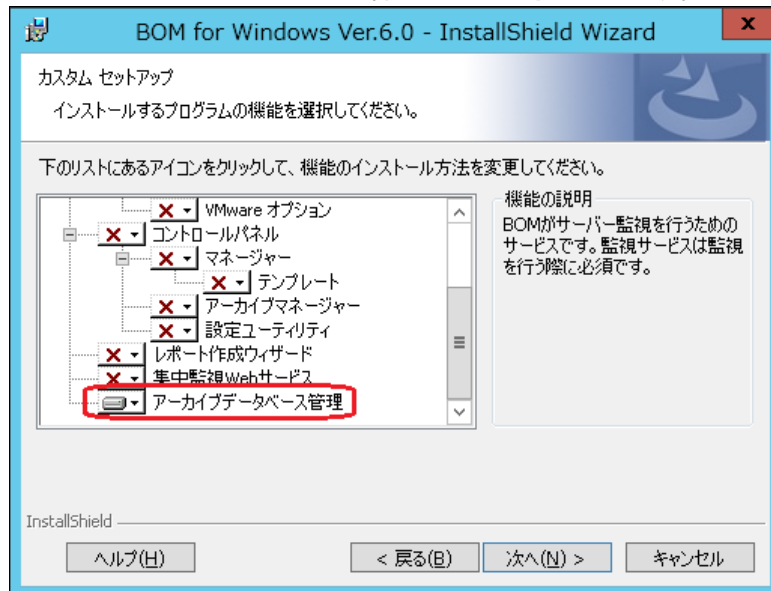


※BOM 6.0 設定移行ツールはセイ・テクノロジーズの Web サイトから入手可能です。

2.5. インストーラーの一本化

アーカイブデータベース用インストーラーも含めて BOM 全体でインストーラーは1つとなりました。

アーカイブデータベースに使用可能な SQL Server 2005、2008、2008R2、2012 のいずれのバージョンも1つのインストーラー並びにアーカイブデータベース管理メニューで対応しています。



2.6. Windows ファイアウォール対応への簡素化

BOM の監視モジュール群とマネージャーをはじめとする各種コンソール間などで使用される通信用のポートは従来手動にて Windows ファイアウォールの例外登録を行う必要がありました。

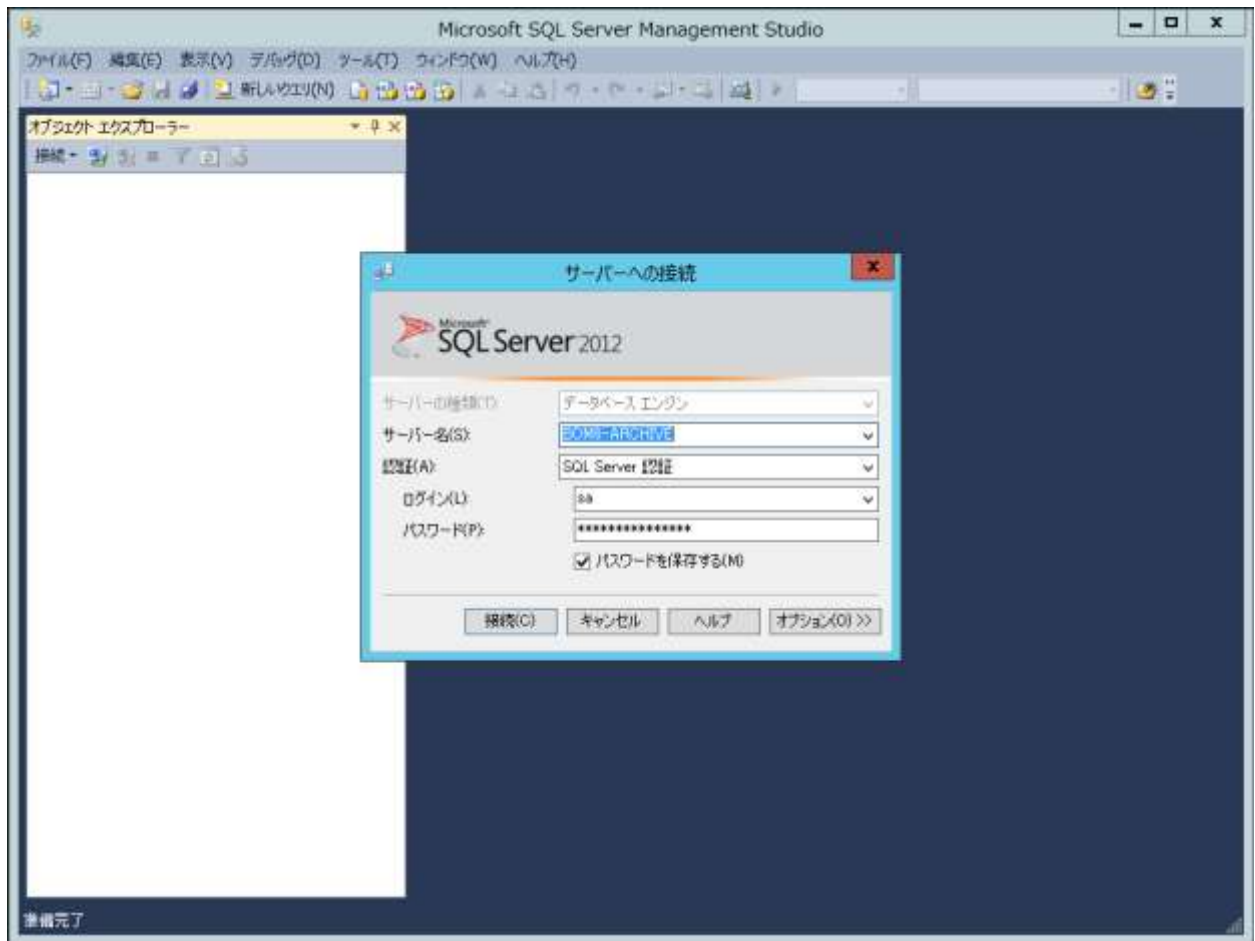
BOM 6.0 では必要な例外登録をインストール時の選択によって自動的に行う動作になっています。

これで面倒な Windows ファイアウォールの設定も必要がなくなりました。



※代理監視運用時の各監視項目に応じてそれぞれ開ける必要なポートに関して本機能は対応しておりません。設定方法などは、最新の弊社技術情報をご覧ください。

2.7. アーカイブデータベースへの SQL Server 2012 対応



アーカイブデータベースとして最新 SQL Server である 2012(SP1)に対応しました。
また旧バージョンである SQL Server 2005、2008、2008R2 でも引き続きアーカイブデータベースを構築可能です。

※SQL Server それぞれの無償版である Express Edition にも対応しています。

2.8. パフォーマンスカウンター監視の 64bit 対応

BOM 5.0 では 64bit プロセスを監視する場合に、それを監視モジュールの差し替えと言う手段にて対応していました。しかしこれには 64bit と 32bit の両方の設定をしたい場合の監視項目を同一の BOM から監視する事が出来ず、モジュール差し替えと言う手段も煩わしさあるものでした。

この問題は BOM 6.0 では、監視項目のプロパティの設定から切り替えが可能にし、64bit と 32bit の両プロセス用の設定をした監視項目の併用も可能となり、一気に利便性と汎用性が高くなりました。

